

(別添4)

【北本市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

高速大容量の通信ネットワーク等のICT環境を最大限活用し、バーチャルでありながら本物に近い情報を簡単に短時間に入手できるようになることが期待される。インターネットなど多様なメディアを活用した教育により、入手した情報を単に知識として習得するだけでなく、得たことを自身の生活と関連させ生かすことができるようになる児童生徒の育成を目指す。

また、情報活用能力が高まるだけでなく、情報モラルを含めたネットトラブル等にも対応できる知識と技術が身に付くよう働きかけていく。

そして、グローバル化やICT化の進展に対応することができる高度な知識と能力を有し、かつ、世界的規模で活躍することができる人材の育成を目指す。

2 GIGA1期の総括

本市では、国の「GIGAスクール構想」を受け、これまで学校で積み重ねてきた教育実践と、ICT機器の活用を組み合わせ、児童生徒の学び続けようとする意欲や豊かな創造性を育むべく、1人1台の学習用端末を整備した。従来取り組んできた学校ならではの協働的な学び合いも大切にしながら、児童生徒の学習をより効果的・効率的に進めるために、学習用端末（以下、「端末」とする）の活用を進めた。

(1) 教育活動でのICT機器の積極的な活用

ア 一斉学習による学び

端末や大型電子黒板を活用し、教員が画像や音声、動画等を提示することで、児童生徒の知的好奇心を刺激するとともに、興味・関心を喚起し、学習課題への理解を深めるよう取り組んだ。

イ 個別最適化された学び

一人一人の特性や習熟の程度に応じて学習を進めるにあたり、習熟度に応じてドリルソフトやデジタル教材を用いることや、各自のペースで情報を収集できる場と時間を確保することで、個別最適化された学びの実現を目指した。

ウ 主体的・対話的で深い学び

大型電子黒板等を用いて、グループや学級全体に学習課題に対する自分の考えをわかりやすく提示し、個人の考えを整理して伝え合うことにより、思考力や表現力を培うとともに、その課題に対してより理解を深めることができるようにした。

エ 特別な配慮が必要な児童生徒の教育の充実

各校の特別支援学級においても、ICTを一人一人の障害の状態に応じて活用

し、学習意欲を引き出したり、多様なニーズに対応した支援を行ったりした。

(2) 臨時休業等緊急時や長期休業中における活用

I C T機器を家庭に持ち帰り、動画やデジタル教科書・教材を用いて、学習課題等に取り組むことにより、各自のペースに合わせた学習を進めることができるようにした。

3 1人1台端末の利活用方策

「教員のI C T機器活用能力の育成」

全ての教員がI C T機器の活用の目的を理解し、I C T機器を活用した指導に係る能力が向上するように研修の実施や、情報を発信していく。市内小中学校におけるI C T機器活用の好事例や教材の共有ができるようにするなど、「G I G A北本ポータルサイト」の内容の充実や活用を図る。

「個別最適・協働的な学びの充実」

各教科で育成すべき資質・能力を身に付けるために、効果的I C T機器を活用し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていきます。学習支援ツール（スクールタクト、Google for Education アプリ）などを用いて、他者の活動を参照または、共同編集をしながら自分の考えをまとめたり、自己調整を図りながら自らの学びを進めたりすることができるようにする。特に「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」や「児童生徒同士や教員とやりとりする場面」、「自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」において、積極的に1人1台端末を活用することができるよう、具体的な活用事例など積極的な情報提供を行っていく。

「学びの保障」

何らかの理由で学校に登校できない児童生徒に対して、授業のオンライン配信や、教師とのやり取りにおいてI C T機器を活用するなど、学校と児童生徒をつなぎながら学びの保障ができるようにしていく。また、特別な支援を必要とする児童生徒への学びの保障として、1人1台端末を活用していく。

これらの方策を実施していくために、これまでと同様に端末の整備・更新を行い、児童生徒1人1台端末の環境を引き続き維持していく。